

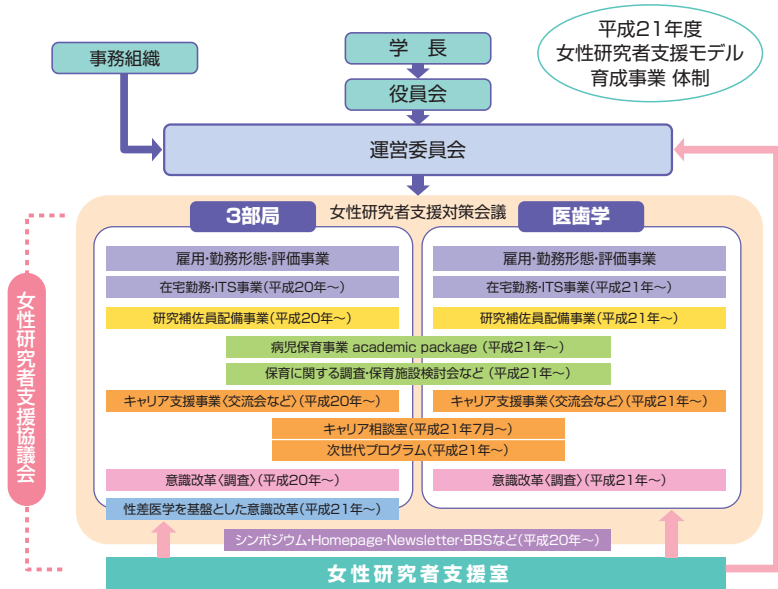


NEWS LETTER

女性研究者支援モデル育成事業2年目の展開について



女性研究者支援モデル育成事業
統括責任者
谷口 尚 副学長

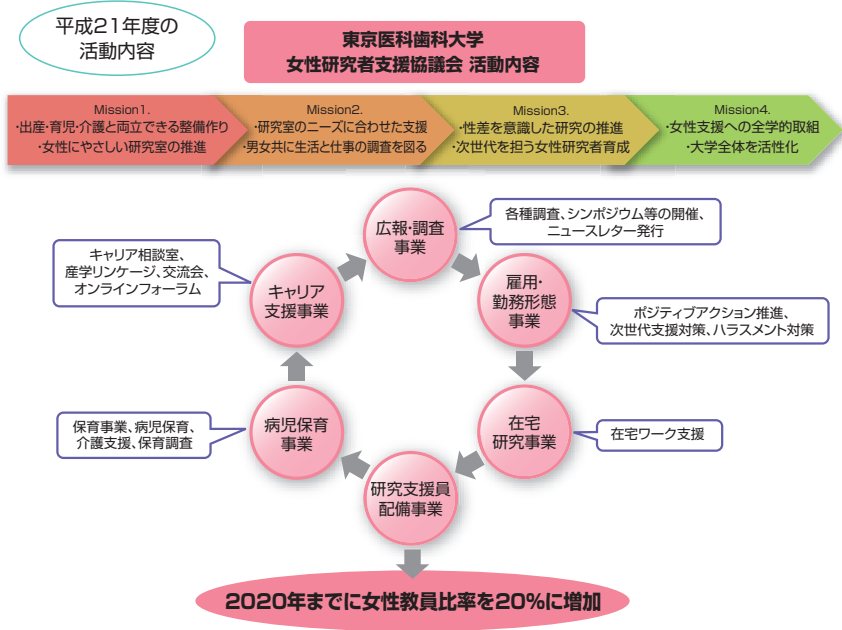


平成20年度に採択されました「女性研究者への革新的支援」事業は、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」として展開し、2年目を迎えました。本年度からは、その対象を拡大し、昨年度の三部局(疾患生命科学研究所、難治疾患研究所、生体材料工学研究所)から歯医学総合研究科

(医学部、歯学部を含む)も対象とする全学への展開を実施しております。全学への展開に伴い、運営委員会メンバーに医学部長、歯学部長にもご参画いただきました。また、全ての部門メンバーから構成される女性研究者支援

対策会議を組織し、雇用・勤務形態・評価事業、在宅研究事業、研究補助員配備事業、保育に関する事業、交流会、ロールモデル研修、キャリアカウンセリングなどのキャリア支援事業、意識改革事業、性差医学を基盤とした研究・啓発事業、広報事業など11の事業を展開する予定です。各事業のリーダーは本学メンバーが務めます。女性研究者支援室と女性研究者支援対策会議で女性研究者支援協議会を形成し、両者の有機的な連携・協力のもとで、多様性のある女性研究者が最大限の力を発揮できる職場環境を構築すべく、活動を行います。

本事業は3年時限のモデル育成事業であり、本学がどのような女性研究者支援が可能なのかへの言わば挑戦でもあります。来年度(最終年度)に向けて発展させながら、その後の継続的活動・実施に繋がる基盤構築を行っていく所存です。



2020年までに女性教員比率を20%に増加

「先輩医師と語る会」を開催しました。



平成21年6月10日(水)に、「先輩医師と語る会」を学内にて開催しました。先輩女性医師との交流を図り、また参加者のこれからのキャリアプラン、ライフプランについて意見交換を行いました。

参加者のライフ支援ニーズ、キャリア支援ニーズ、当室へのニーズに関するアンケート調査を行った結果、ライフ支援については、ライフプランの立て方を知りたい、子育て・介護をしながら働き続けられる環境づくりを作ってほしい等が挙げられました。

キャリア支援については、出産・育児休暇後の復帰の仕方、ワーキングシェア、就職情報・進路について相談したいとの意見が出ました。

「研究者・医療者のキャリアデザイン ～あなたらしいワークライフバランスのために～」 シンポジウムを開催しました。

平成21年7月2日(木)に、東京ガーデンパレスにて「研究者・医療者のキャリアデザイン～あなたらしいワークライフバランスのために～」シンポジウムが開催されました。開会の挨拶として、谷口尚副学長から本学におけるキャリア支援の重要性について提案がなされました。

続いて、小川賀代 日本女子大学理学部数物科学科准教授から「e-ポートフォリオシステムを用いたキャリア構築について」、鈴木利哉 東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター准教授から「東京医科歯科大学のママさんドクター・リターン支援プログラムの試み」、



金井篤子 名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授から「女性のキャリアデザインとワークライフバランス」、片岡仁美 岡山大学病院卒後臨床研修センター講師/医療人GP取組担当から「女性を生かすキャリア支援計画」についてご講演がありました。

後半のパネルディスカッションでは、フロアから研究者のワークライフバランスに関する質疑応答が交わされました。最後に、閉会の辞として北嶋繁孝 難治疾患研究所所長から、研究者・医療者のキャリア開発とキャリア形成支援についての提案がなされました。

「第1回 Angel Seminar」を開催しました。



平成21年7月9日(木)に、東京大学教育国際協力研究センター特任准教授 Rebecca Harrison先生をお招きし、同センター共同開催のもと、「米国における女性医師のワークライフバランス」について、学内セミナーを開催しました。

Harrison先生は、「医療従事者自身、あるいは組織がワークライフバランスを推進することが重要であり、このことが過重労働により生じるバーンアウトを防ぎ、優秀なスタッフの離職を回避出来る」と講演されました。米国の女性医師のパート労働へのシフトについて学ぶと共に、日本の現況と比較することができました。医学生、研究者、医員、留学生から活発な意見があり、日米双方の理解が深まりました。

「第1回 性差医学・医療セミナー」を開催しました。

本校の「女性研究者への革新的支援」プロジェクトでは、性差医学を基盤とした意識改革が大きな柱の一つとなっており、性差医学・医療に関し、基礎、臨床、社会医学を包括的に考えていくセミナーを企画しております。

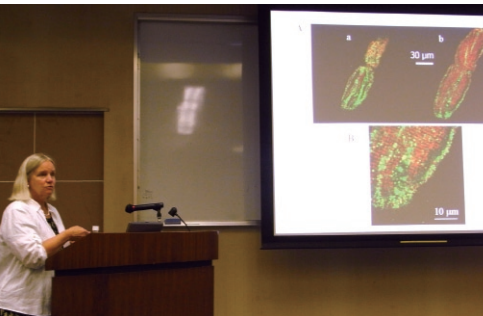
その第1回として、平成21年7月16日(木)に「性差医学・医療セミナー」を開催しました。東京医科歯科大学難治疾患研究所から黒川洵子准教授が、“Sex difference in sudden death :

higher risks of drug-induced arrhythmia in women”をタイトルとして、男女の不整脈、特に薬物起因性の突然死の性差について講演をしました。

今後も性差医学・医療に着目した連続セミナーを企画して参りますので、ぜひ学内の皆様にご参加頂ければ幸いです。



「第2回 Angel Seminar」を開催しました。



平成21年7月21日(木)に、講師にコロンビア大学薬理学教授 Penelope A. Boyden先生をお招きして「第2回 Angel Seminar」

を開催しました。タイトルは“Purkinje Fiber Calcium Dysfunction in Arrhythmia”とし、不整脈のメカニズムについてのご講演と同時に、コロンビア大学における女性研究者の現

状についてお話を伺いました。

コロンビア大学では、女性の学部長はすでに存在しているものの、基礎科学分野での女性学部長はまだ存在しておらず、医学部では女性教授が15%である一方で、薬学部では女性教授はわずか2名であり、分野によって女性研究者の活躍状況が異なることも述べられました。先生ご自身の経験から、女性が研究をし続けるには、「自分の道を諦めない」ことが重要であると述べておられました。

東京医科歯科大学オープンキャンパスへ参加しました。

平成21年7月28日(火)・29日(水)に、全学で行われたオープンキャンパスに、当室が講演並びに展示を行いました。

当室の活動内容のポスターを展示し、WishTree(あなたがなりたいもの)を掲示し、なりたいものを書いて貼るというイベントを行

いました。連日1500名もの参加者があり、講演にも60名ほどの中高生、保護者の方々がご参加下さいました。



Career Counseling / 2009.7.6 キャリア相談室を7月にオープンしました。

東京医科歯科大学難治疾患研究所「性差医学・医療センター」

キャリア相談室 開設のお知らせ

2009年7月6日よりオープンいたします！
これからのキャリアやライフプランに悩んでいませんか？
研究・仕事と育児の両立に悩んでいませんか？
ぜひキャリア相談室までご相談ください。

【支援内容】
・研究・仕事と育児・家事・介護との両立が難しい
・今後研究を続けていくか迷っている
・結婚・出産後の仕事の継続や復職後のことについて
・今後の進路やライフプランについて
・キャリアやライフプランについてお気軽にご相談ください。

【対象者】
本学教職員、医員、学部/大学院生(男女を問いません)
【ご利用方法】
http://www.tmd-angel.jp/soudan/ まで事前予約の上、希望日時をお知らせください。予約なし、相談日時をご連絡いたします。相談をお受けできるのは、月曜・金曜の10時～11時、水曜の13時～14時です。前、メールでの相談は受け付けていません。
※相談内容のプライバシーは厳守いたします。

【相談員】
本学研究支援室 特任助教 有馬秋子
【場所】
東京医科歯科大学 湯島地区3号館4階417号室
TEL: 48-860001 FAX: 48-860008
東京医科歯科大学研究支援室 Angel Office
Institution of Gender Equity/ Gender Medicine and Biomedical Research

7月6日より、当室においてキャリア相談室を開設いたしました。これから進むべきキャリアについてどうしたらよいのか分からない、次のポジションに結び付きにくい、研究や仕事、家庭との両立が難しい、等のご相談に個別に対応いたします。対象者は、本学教職員、医員、学部/大学院生の男女です。ご利用方法については、“<http://www.tmd-angel.jp/soudan>”をご覧ください。

Others 研究支援員 配備プログラムを開始しました。

出産・育児や女性特有の疾患等により、キャリアの継続に困難を感じている女性研究者に、研究支援員配備事業を行っています。

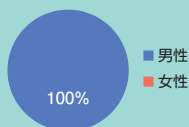
学内の皆様から22名のご応募を頂きましたが、選考の結果、今年度は8名の方を採択させて頂きました。8名の方々の内訳は、医学系が3名、歯学系2名、難研が2名、保健衛生学科が1名でした。

[調査のご報告]

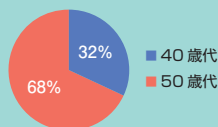
女性研究者支援の意識調査アンケート

平成21年3月に、難治疾患研究所、生体材料工学研究所、疾患生命科学研究所の常勤教授を対象に、女性支援プログラムや当室の認知度についてアンケート調査を実施いたしました。教授32名のうち、22名から回答がありました(回答率68.7%)。

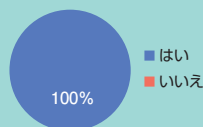
本校が女性研究者支援モデル育成事業に平成20年から取り組んでいること、並びに当室の存在については100%が「知っている」との回答でした。また、女性研究者の数を2020年までに20%に増加する数値目標については73%が「知っている」、当該目標を掲げることについては77%が「賛同する」との回答でした。



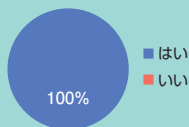
1-1. 男女比



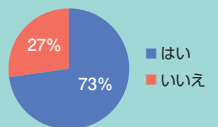
2-1. 年齢割合



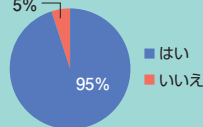
3-1. 文科省科技振調整費の女性研究者支援モデル育成事業に本校が平成20年から取り組んでいることを知っていますか。



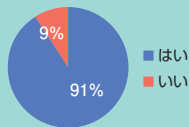
3-2. 女性研究者支援室を知っていますか。



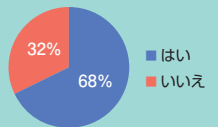
3-3. 研究部と研究所において女性研究者を10%増加させ、2020年までに全校で女性研究者の割合を20%に増加するという目標を知っていますか。



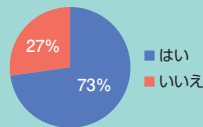
3-4. 出産・育児等に直面した女性研究者に、女性研究者支援室が研究補助員を配置するプログラムを知っていますか。



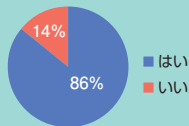
3-5. 女性研究者支援室で、在宅研究システムを開発中であることを知っていますか。



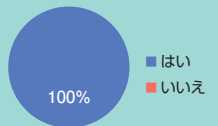
3-6. 本プログラムで緊急・病児保育に対する支援を制度化するという目標を知っていますか。



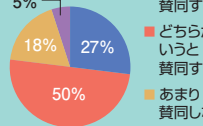
3-7. 本プログラムで性差医学を推進し、男女共同参画への意識を高めるという目標を知っていますか。



3-8. 女性研究者支援のための情報環境を整備することが目標であることを知っていますか。



3-9. 1月23日に「女性研究者への革新的支援シンポジウム」が行われたことをご存じですか。



3-10. 本校において、女性研究者を増加する数値目標を掲げていることをどう思われますか。

女性研究者支援モデル育成事業メンバー (平成21年度)

■運営委員会

谷口 尚(統括責任者)

大学院医歯学総合研究科(歯学系) ● 教授・副学長

大野 喜久郎

大学院医歯学総合研究科(医学系) ● 教授・医学部長

北嶋 繁孝

難治疾患研究所 ● 教授・所長

田上 順次

大学院医歯学総合研究科(歯学系) ● 教授・歯学部長

鏑田 武志

大学院疾患生命科学研究所 ● 教授・研究部長

山下 仁大

生体材料工学研究所 ● 教授・所長

■女性研究者支援対策会議

新井 文子

大学院医歯学総合研究科(医学系) ● 講師

荒木 孝二

医歯学教育システム研究センター ● 教授

石野 史敏

難治疾患研究所 ● 教授

井関 祥子

大学院医歯学総合研究科(歯学系) ● 教授

門磨 義則

生体材料工学研究所 ● 准教授

木村 彰方

難治疾患研究所 ● 教授・副学長

黒川 洵子

難治疾患研究所 ● 准教授

小山 恵子

保健管理センター ● 准教授

西村 栄美

難治疾患研究所 ● 教授

三高 千恵子

大学院医歯学総合研究科(医学系) ● 准教授

宮坂 信之

大学院医歯学総合研究科(医学系) ● 教授・副学長

森尾 郁子

大学院医歯学総合研究科(歯学系) ● 教授

山本 則子

大学院保健衛生学研究所 ● 教授

■女性研究者支援室

谷口 尚(室長)

大学院医歯学総合研究科(歯学系) ● 教授・副学長

荒木 葉子 ● 特任教授

有馬 牧子 ● 特任助教

小島 優子 ● 特任助教

河島 純子 ● 職員

(五十音順)



編集・発行

東京医科歯科大学 女性研究者支援室

Activation of Gender Equity / Gender Medicine and Enrichment of Life (Angel Office)

〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45 3号館4階 477号室

E-mail: info.ang@mri.tmd.ac.jp TEL: 03-5803-4921 FAX: 03-5803-0246

http://www.tmd.ac.jp/mri/ang